

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年11月17日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3891500070
事業所名 (ユニット名)	グループホーム重信の郷 1 F
記入者(管理者) 氏名	本田 由香
自己評価作成日	平成29年10月20日

<p>【事業所理念】 明るく生き生きと過ごし、その人らしい暮らしを守っていきます。笑顔で笑顔を繋げていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①緊急時の備蓄がほとんどない・・・約2日半分の食料と飲料水の備蓄した。また、施設で調理するため、米や食材の保管は常時ある。 ②職員の利用者家族及び地域との関わる機会が少ない・・・来所時には必ず入所者の様子を伝えるような声かけを行うよう心がけている。 運営推進会議への出席は十分ではないが会議録を閲覧できるようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体法人は、県内で高齢者介護事業や障がい者支援事業を展開しており、今年度から他法人よりグループホームの運営を引き継ぎ、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいた認知症ケアの技法である「ユマニチュード」を取り入れ、優しい支援対応に努めている。地域との連携が大きな課題ではあるが、課題解決のための沢山のアイデアを持っている。今後の実践や取り組みが楽しみな事業所である。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	家族や本人から出来るだけ聞き取れるよう努力している。	○	/	○	日々の生活の中で、希望や意見を必ず聞くように接している。発語の少ない利用者の気持ちは、家族等から情報を得たり、職員間で情報を交換して共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情等から察したり、今までのことを鑑みて検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	主介護者とは話し合うことが多いが、親戚や友人と話し合うことはなかなか出来ない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント表や介護記録に記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の気持ちをしっかり聞くよう努めるとともに、他の人の意見(見方)も聞くようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や元の担当ケアマネ等に確認している。	/	/	○	利用者や家族等、入居前に利用してきたサービス事業所などから情報を得ている。入居時の情報収集はもちろん、日々の生活の中で関係を構築させながら情報を得ることも大切にしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	心身の状況や有する力は、人によって違うし、日によって、時間によっても違うことがあるので、あきらめずその都度状態を把握しながら支援している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	表情や行動により把握するよう努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安や不安定になったとき、普段と変わったことがなかったか考えたり、今までのことを振り返って把握できるよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護記録や申し送りなどで把握できている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	背景や病状、本人の気持ちを伺いながらチームで検討している。	/	/	○	日々共有している情報をもとにスタッフ会議で職員間で話し合い、利用者の気持ちを大切に検討を心がけている。家族とも生活上の課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人のQOLの向上を目指し、スタッフ会議や小ミーティング等で検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランに計上し皆に周知している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	出来る限りそうなるよう情報収集に努めている。	/	/	/	介護計画書には、日々の生活の中でくみ取ってきた思いが反映されるように努めている。課題については家族等と共有し、意見の確認を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人に聞いたり、担当者会議、家族訪問時、必要時には電話にて家族に確認して作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人の意向が聞き取れない場合は、家族から生活歴や性格などを確認しながら作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は取り入れられていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフ会や申し送りなどで共有している。	/	/	○	スタッフ会議で介護計画を共有し、把握している。職員担当制を敷き、担当者や管理者が情報を交換し、モニタリングを実施している。記録の取り方は職員により差があると感じているため、利用者の暮らしの様子や気づき、職員の工夫などを盛り込んで生き生きとした内容となるように取り組んで欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	モニタリングを記入している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	介護記録に残すようにしているが十分ではない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	半年に一度、また、大きく状態が変わったときには見直しを行っている。	/	/	○	介護計画の見直し時期の管理は管理者が行い、6か月ごとに見直ししている。毎月のスタッフ会議で全利用者の現状確認を行い、入退院など大きな変化や状況に応じた見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	心身の状況や状態に変化があったときには見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回のスタッフ会議や小ミーティングを行っている。	/	/	◎	毎月のスタッフ会議や、当日の出勤者で即日話し合いを持っている。参加できない職員は、話し合った内容を申し送りノートや会議録で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	普段から話しやすい雰囲気や体制を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	なるべく速達時期に会議の日程を周知し、開始時間はいつも同じにするなど工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録と口頭にて伝達している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	一日2回の申し送りや申し送りノートなどで共有できるようにしている。	/	/	◎	口頭での申し送りや、申し送りノートや会議録で情報を確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	口頭での申し送り、申し送りノートの活用、日勤者がリーダーとして申し送るなどしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望があれば出来るだけ叶えられるよう努力している。	/	/	/	その日の過ごし方や衣類を選ぶなどの希望は、その都度利用者に確認し、利用者が理解しやすい質問形式に配慮している。職員は利用者の表情や態度などから思いをくみと取ろうと努力し、言葉がけをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自分で選べる人には選んでいただき、難しい人でも二者択一など選びやすくなるよう配慮している。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人が表現できるよう、せかさずに待つ介護を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来るだけ本人のペースで生活出来るよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人一人の興味がある事柄を把握するよう努め、話題にしたり働きかけたりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方が出来るよう支援している。	◎	表情や反応から読み取るよう努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権や尊厳に配慮し、行動や声掛けに注意を払っている。	○	○	◎	優しい愛のある対応にこだわりを持ち、徹底している。人権や尊厳、関わり方の研修マニュアルを作成し、入社時に管理者から伝え、理解が深まるようにしている。利用者の希望に沿った呼称を取り入れ、声かけや対応に疑問が感じられる場合は、管理者が指導している。居室の出入りについては、利用者専用の場である理解があり、ノックや利用者に声をかけることがルール化されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	入社時指導や日々の業務の中で、配慮するよう指導している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	ドアの開閉、タオルなどの利用、視線など注意を払っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室は必ずノックをし、または本人の了解を得てから行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時指導やスタッフ会議などで随時注意喚起し、守っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	本人が得意としていたことや、生活の知恵などを教えていただく機会を作ったり、協力して頂いたことに対して感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	利用者同士の関係性を大切にし、孤立しないよう様子や配席に注意し見守りながら、必要に応じて職員が仲介している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解し、そのような場面があれば見守り、必要な援助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	様子を見ながら間に入ったり誘導を行い、スムーズに関わり合いが持てるよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	もちろんそのように対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時や面会時に把握できるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時や面会時、または本人との会話の中から大体把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	出掛けて行くことはあまり出来ていないが、希望されている人には時々対応している。電話や手紙の取次は出来ている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には気持ちの良い挨拶を心掛け、居室で気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	雨が降らない限り散歩に行ったり、外気良く出来るよう取り組んでいる。	○	○	◎	その日の希望や状態を確認しながら、外出する利用者を固定化しないように少人数ずつ、毎日のように散歩や買い物に出かけている。重度な状態にあっても庭先に出たり、戸外の空気に触れられるよう配慮している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎年している地域の行事への参加は、地域の皆さまの協力を得られている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	暑さ寒さに注意し、可能な時には散歩や外気浴を行うようにしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	そうして差し上げたいとは思いが出来ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社外社内の研修や、日々の業務のなかで学びながら、スタッフ間で検討しながら当たっている。	/	/	/	自発的に機能訓練や家事を行う利用者の様子を見守っている。利用者のできることやできそうなことについて個々によく理解し、家族等とも情報を交換している。できることに取り組む利用者を見るうちに、自分もやってみようかと意欲がわく利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	時間が掛かっても出来ることは出来るだけ自分で行っていただき、今出来ていることが長く続けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	待つ介護を心掛けている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	個々の出来ることや役割を把握し、生かせるよう支援している。	/	/	/	一人ひとりの楽しみごと、役割、出番について個々によく把握している。継続して実施できるように声かけや場面づくりができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	状態の変化が見られたら、その状態で出来るよう援助方法を工夫して対応している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	多くはないが地域の行事に参加できるよう支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その日の服は出来るだけ本人に選んでいただくようにしている。	/	/	/	家族からの希望も取り入れ、「いつもきれいでいて欲しい」という気持ちで接している。身だしなみやおしゃれに関する実施状況を介護記録で確認することができ、アセスメントを更新しているため、重度な状態になっても利用者の好みを活かした支援に活かすことができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の意向を伺い、家族の協力を得ながら整えている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択方法を変えたり、アドバイスにより支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段着と外出着は変えるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人のプライドが傷つかないよう配慮して声掛けしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	入所前から行っている美容院を希望されている人は行けるようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	朝、必ず整容と更衣の支援を行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	心身機能の維持のためや、楽しみや生きがいであることなどを理解している。	/	/	/	利用者の好みや誕生日などの特別のリクエストメニューに応じながら、職員が交代で一週間ごとの献立を立案し、買い物や下ごしらえなどを利用者と共にしている。利用者の嗜好を把握し、苦手なものについては代替食材で対応している。旬の食材を選んだり、ふかし芋などのおやつや、干し柿づくりを楽しみながら、季節感やなつかしさを味わっている。食器類は利用者ごとに使いやすい物を事業所で用意している。職員は食事のサポートやペースを見守ったり、お茶の時間を共にしているが、一緒に食卓で食事を楽しめるように検討して欲しい。重度の利用者も他の利用者と共に、リビングの同じ雰囲気の中で調理の過程を楽しんでいる。現在は献立のバランスなど専門的なアドバイスを受けていないが、法人内には相談できる栄養士がいるため、ぜひ定期的にチェックを受けてみて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物や献立はたまに、調理や後片付けは役割として定着している。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に行うことにより出来ている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	理解している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節や行事の時には献立を工夫している。また、旬の食材を使うよう心掛けている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	口腔内の健康維持や排便コントロール、美味しく見える盛り付けなど、食が進むような工夫をしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人用の器や箸が決まっており、使い慣れたものを使っていたい。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	×	一緒には食べていないが、介助を行いながら様子を見守りサポート出来ている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	聴覚、嗅覚、視覚、献立や調理方法の伝達などを行い、楽しみに思ってもらえるよう心掛けている。	/	○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人一人の日々の状況の把握に努め、必要な栄養や水分が無理なく取れるよう援助している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	定期的食事や水分補給以外にも、個々の状態に応じた摂取が出来るようにしている。また、必要に応じ栄養補助食品を利用している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	時々話し合っているが定期的ではない。また、栄養士のアドバイスは受けていない。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	消毒を行い、食材の仕入れや保管には注意を払っている。	/	/	/			

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	スタッフ会や研修会などで学び、理解出来ている。	/	/	/	毎食後に口腔ケアを実施し、できる方には声かけし、必要に応じて介助している。義歯を自分で手入れする利用者に、声をかけながら自分でできることをしてもらっている様子が確認できた。口腔内の不具合について訴えがあれば対応していたが、訪問歯科診療で全利用者の健診を実施し、歯科医からの指導を受けるように改善し、定期的に把握できるようになった。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	大体把握できている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	最近訪問歯科診療を取り入れ、歯科医に時々指導を受け始めたところである。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、それぞれに応じた手入れが出来るよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自分で出来る方への対応は十分ではない時もある。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常があれば対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修や勉強会、スタッフ会などで学習し理解出来ている。	/	/	/	トイレでの自然な排泄を基本とし、意欲や身体機能を高めることができるよう支援している。オムツの利用者はおらず、排泄用品は個々の状態に合わせて、極力軽減できるように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解出来ている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	大体把握でき誘導出来ている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	紙パンツやパッドは使用しているが、必ず全入所者にトイレでの排せつ誘導を行っている。可能な方は布パンツを着用して頂いている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	スタッフ間で検討し、取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンの把握に努め誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族、スタッフで相談しながら選択している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の状態に応じ使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分、乳製品、食物繊維の摂取、運動、食後のトイレ誘導など、自然排便が出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	出来るだけ希望に添えるよう調整し、無理強いしないようしている。	◎	/	○	週2～3回の入浴を目安に、利用者の希望を聞きながら支援している。入浴が苦手な利用者もいるが、ゆったりとくつろいでもらえるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	せかさずゆっくり入浴出来、くつろいでいただけるプライベートな時間が持てるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分が洗えるところは自分で洗っていただき、出来ない部分の援助のみ介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	チームとして拒む理由を考え、時間を変えたり気分を変えたりして対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック他、様子観察や聞き取りにより体調確認を行い、入浴可否の決定を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りなどで把握できている。	/	/	/	不眠に悩む利用者がいて、職員がアイデアを出し合い、試行錯誤した経験を持っている。基本的な生活リズムを大切に、日中の活動量を増やしたり、環境を整備することで安眠につなげている。服薬に関しては医師と相談し、総合的に支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やす、環境を工夫する、寝る前の時間帯は穏やかに過ごせるよう配慮するなどしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動量や精神状態、環境、出来事、便秘など、総合的に検討、対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	状況を見て個別に対応できている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望があるときは対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族から本人宛に荷物が届いた時などには、本人が電話できるよう促し、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	折々に電話したいときには言って頂くよう声掛けしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	必ず本人にお渡しし、本人がどうしたいか伺い、または促し、連絡が取れるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	特に入所直後や、精神的に不安定な時などはなるべくしていただくようお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。本人の状態に応じどう対応するか理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物に行ける状態の人については時々行けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先に理解を得る働きかけは出来ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を持っていたい人にはその力に応じて所持して頂いている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時や面会時、必要時には電話で話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳をつけ、家族に確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る限り希望に添えるよう取り組むとともに、言いやすい環境を作るよう努めている。	◎	/	○	その時々ニーズに柔軟に取り組んでいこうとする姿勢があり、お墓参りや自宅の様子が気になる利用者の要望に応えている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植えたり清掃を行い、明るい雰囲気作りに努めている。	◎	○	○	玄関周辺に花を植えたりきれいに清掃するなど、来訪者が心を和ませ、気持ちよく出入りしてもらえるよう努めている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	出来るだけ整理整頓した上で、家庭的な雰囲気でも過ごして頂けるよう配慮している。	○	○	○	キッチンの調理台がリビングに背を向ける配置であるため、見守りに注意している。食卓とソファ席を分け、気分によって使い分け、季節のクラフト作品などを飾ったあたたか味ある空間を演出している。丁寧に掃除が行き届き、経年した建物ではあるが臭気はなく、清潔な空間となっている。自分で掃除を日課にする利用者もあり、できることがさっとできるように配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	なるべく不快な環境を排除出来るよう努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	採光や照明、風通しなどにも気を配り、気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	座る場所を誘導したり、孤独を感じないように工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	扉を閉め、直接見えないようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使っていたなじみのものや好みの物を持って来ていただき、自分の部屋であると安心して過ごせる環境作りに努めている。	○	/	○	自宅で使用していたタンスなどの家具や身の回りのものを自由に持ち込んでもらい、自分で掃除や片づけをしながら居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自室やトイレの場所をわかりやすく表示し、廊下には障害物を置かないよう注意している。	/	/	○	「おべんじょ」と馴染みある言葉を用いた掲示物で、トイレの場所を示してある。認識間違いを軽減させるよう、わかりやすい表示の工夫を各所に施している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	迷わないようプレート表示や目印をして対応している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	危険なものは目につかない場所に保管し、必要な時にはスタッフと一緒に使用しているが、それ以外の物はいつでも手に取れるよう置かれている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しており日中の施錠は行っていない。	◎	◎	○	安全防犯上、防犯カメラの設置があるが、見守り重視での活用としている。職員は施錠の弊害については理解し、日中の施錠はない。ユニット間にはチャイムを活用し、誰もが自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望まれる家族はいないが、今後あれば話し合って理解をいただけるよう話し合う。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関の扉が開くとチャイムが鳴りスタッフが気付けるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時や変化があったときには申し送り等で伝達し、情報はファイルにしてあり把握できている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	変化や異常のサインを見逃さないよう注意し、変化があったときは介護記録や申し送りノートに残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでも気軽に相談できる体制が出来ており、その都度対応出来ている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人や家族の希望を伺い対応している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の希望を伺い対応している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受信時には必ず行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には、安心して入院加療できるよう情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	電話や面会により対応している。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	協力医との関係づくりは図れているが、それ以外の所とはその時にいい関係が築けるよう努めているが日頃からは行っていない。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週1回の定期訪問時に伝え、相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医とは24時間連絡が取れる体制になっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状況に変化があったときは直ちに相談や治療が受けられるよう体制が出来ている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤情報や申し送りで大体把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の管理を行い、間違いなく服薬できるよう支援している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に確認できており、必要だと思われるときは主治医に相談し支持を頂いている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状況把握に努め、情報提供している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状況に応じ、本人や家族の意向を伺いながら方針を確認している。	/	/	/	看取りの実施はないが、運営推進会議や入居時に家族等から希望を聞き取っており、今後は看取り支援をしていきたいと思っている。協力医療機関と24時間の連携がとれるが、終末期ケアについて職員は漠然とした不安感を感じており、勉強会や内外研修への参加で不安の軽減に努めて欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	協力医や家族、スタッフとの話し合いの機会を多く作り方針を共有している。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	日々のケアの状況や研修等により、把握出来ている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	その状況が来れば行い、方針を相談することとしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や協力医と連携を取り、支えていく準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情や事情を理解し、援助を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	スタッフ会で定期的、及び随時学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防や対策の取り決めはあるが、日ごろからの訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	東温市や協力医、訪問看護師、テレビやネットなどから情報を得ている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	同上	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	スタッフの手洗いやうがいは毎日徹底できており、来訪者には手指消毒や、感染症発生時期のマスク着用などをお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	出来ている家族もあるが、家庭の事情もあり十分でないところもある。				家族が活動に参加する場面や機会について、回数や参加者が少ないと感じているため、改善に向けて話し合い、具体的に工夫していけることに期待したい。利用者の日常をお便りにして届け、暮らしぶりを伝えている。運営推進会議では運営上の事柄を報告する様子が議事録から確認できるが、家族が理解できるように工夫が必要である。さらに、参加できなかった家族へも、運営推進会議で話し合われた内容や、運営上の報告が伝わるよう改善して欲しい。家族の来訪時には良好な関係が構築できるよう、積極的に声かけをしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来所持や電話での対応時に、話しやすく居心地の良い雰囲気作りに努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	運営推進会議などに合わせて機会を作っているが、回数は少なく、参加される家族も少ない。もう少し工夫が必要だと感じている。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、入所者の様子を伝える手紙を送っている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話連絡時などに把握できるよう声掛けし、報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症を受け入れられるよう、症状の説明や対応のアドバイスを理解を得られるよう努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議にて報告している。	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議の案内を行っているが参加者は偏っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	個別に伝達し、対応を相談している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には積極的に声掛けしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所時に説明し、理解を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に当たっては、契約に基づいた対応を行い、退去先にスムーズに移動できるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時や改定があったときに説明し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	自治会に入り理解を求める機会を作っている。また、運営推進会議への参加を依頼して情報伝達を行っている。	/	○	/	自治会に加入しているが、まだ気軽な交流ができていないと感じており、今後の活動を通して気軽な交流が持てることに期待したい。地域密着型サービス事業の理解を深め、日常生活圏域の資源を把握し、職員が持っている沢山のアイデアを具体的に実践しながら、地域とのつきあいやネットワークを深めていって欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩や外気浴時のあいさつ、地域の行事への参加などを行い、つながりが持てるよう配慮している。	/	×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩や外気浴時のあいさつ、地域の行事への参加などを行い、事業所の存在を周知して頂くよう努力している。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	通りがかりに声を掛けて頂くが訪問はされていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	同上	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ボランティアに来ていただいたことはあるが日常的ではない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	外出出来たころには出来ていたが、加齢や状態の悪化により困難になったこともあり、外に出かける機会は減っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	避難訓練や東温市介護ネットなどの参加により協力や理解を得られるよう取り組んでいる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	偏りはあるが参加して頂いている。	◎	/	○	運営推進会議には、家族や地域住民の参加を得ている。あるがままの報告を行うことで、厳しい意見も具体的なアドバイスも得られ、出された意見を運営に反映するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告出来ている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	出来るだけ参加者の意見を引き出せるよう、話しやすい雰囲気作りや声掛けを行い、サービス向上に活かせるよう努めている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい曜日や時間帯を聞き、あまり変えないよう配慮している(月末近くの木曜日、13:30開始)	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録を作成し公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員で話し合って理念を作り、廊下に掲示して日々の業務に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	来訪時に見えるよう掲示している。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	計画的に研修を受けられるよう、日程調整や費用の負担などの協力体制をとっている。	/	/	/	代表者は今年度からストレスチェックを導入することにより、職員の状態を把握し気づきを促す良いきっかけになったと実感している。業務や事業所内外の研修での学びを通じてスキルアップが図れるよう環境を整備している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人職員の指導を計画的に行う事、また段階を追ってスキルアップできるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	スタッフの個別の評価を行い、賞与や給与に反映させている。また、労働時間は本人の希望に添えるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	県や市の交流会などに参加できる体制を作っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックの導入を行ったり、相談しやすい環境作りに取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	社内外の研修において学び、理解出来ている。	/	/	/	勉強の機会を設け、虐待や不適切なケアに当たる具体的な行為の理解に努めている。声かけや対応に改善が必要だと感じられると、その都度管理者が指導し、職員が気づきを持てるようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月に一回のスタッフ会だけでなく、随時話し合える体制を作り実行出来ている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアが見られた場合は直ちに改善するよう指導し、全員に周知している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックの導入を行ったり、相談しやすい環境作りに取り組み、話す機会を作っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内外の研修やスタッフ会などで検討する機会を持ち、理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内外の研修やスタッフ会だけでなく、随時検討する機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合い、拘束の弊害や危険性などについても理解を頂くよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修等において学び理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要があると思われる場合は情報提供や相談を受ける体制にある。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	担当弁護士との連携体制が取れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年2回の避難訓練時に消防署から指導を受けている。また、事故やヒヤリハット事例について対策について検討している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事例についてはスタッフ会で報告、検討し、報告書はいつでも見られるようにしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	スタッフ会議時や随時検討し、事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知し、対応を検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに解決できるよう対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに回答するよう努力し、代表者等とも相談しながら誠意をもって話し合い、納得いただけるよう努力している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常生活の中で直接伺えるような機会を見て(自室におられるときなど)声掛けを行っている。	/	/	○	利用者には日常生活の中で、家族には来訪時や運営推進会議などで意見を伺っている。出された意見は早期に検討し、運営に反映できるように努めている。職員からは日常業務の中で意見や提案を聞いたり、相談する機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時や電話時に確認したり、苦情受付窓口については入所時などにもお伝えしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要と思われる場合は伝えるようにする。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	直接の機会は殆どなく、管理者を通じて情報を得ている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的及び必要と思われる時に検討している。	/	/	○	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	一年に一回実施している。	/	/	/	サービス評価の取り組みは運営推進会議で報告し、その内容を議事録で確認することができるが、家族や地域の参加者は理解が難しいと感じている様子が伺えるため、伝え方に工夫が必要であり、今後の取り組みのモニターをしてもらえるなど働きかけて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の結果をスタッフ会にて伝達し、意識統一や学習の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を立て達成に向けて努力している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で報告している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	災害マニュアルを整備し、約3日分の食糧を備蓄している。年2回の訓練や、消防署からのアドバイスを受けているが、地域と住民との連携が薄い。今後は家族や地域との話し合い、地域防災組織の訓練へ参加、他事業所などと連携を深めるなど具体的な活動に取り組みたいと管理者は考えている。さらに連携を深めていく中で協力・支援体制を確保して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練で行うようになっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	管理者が行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回の避難訓練時の消防署からの指導や運営推進会議にて話し合い、協力をお願いしている。	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	今のところ実施出来ていないが、機会を探して参加したいと考えている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。	/	/	/	相談支援の要望には気軽に応じる姿勢があるが、まだ地域住民や関係機関との連携が浅いと感じており、今後の課題としている。地域の資源を把握し、事業所の認知症ケアの実践力を活かした情報発信や、啓発活動に取り組みながら、地域活動を協働していけることに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	施設見学時には行っている。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	愛大より実習生の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントには参加している。	/	/	△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年11月17日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3891500070
事業所名 (ユニット名)	グループホーム重信の郷 2 F
記入者(管理者) 氏名	岡崎 尚之
自己評価作成日	平成29年 10月 20日

<p>【事業所理念】明るく生き生きと過ごしその人らしい暮らしを守っていきます。笑顔で笑顔を繋げていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】                  ①緊急時の備蓄がほとんどない・・・約2日半分の食料と飲料水の備蓄した。また、施設で調理するため、米や食材の保管は常時ある。                  ②職員の利用者家族及び地域との関わる機会が少ない・・・来所持には必ず入所者の様子を伝えるような声かけを行うよう心がけている。運営推進会議への出席は十分ではないが会議録を閲覧できるようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】                  母体法人は、県内で高齢者介護事業や障がい者支援事業を展開しており、今年度から他法人よりグループホームの運営を引き継ぎ、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいた認知症ケアの技法である「ユマニチュード」を取り入れ、優しい支援対応に努めている。地域との連携が大きな課題ではあるが、課題解決のための沢山のアイデアを持っている。今後の実践や取り組みが楽しみな事業所である。</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居前の様子をご本人やご家族から聞き、日常会話からも、本人がやりたい事などを伺っている。	○	/	○	日々の生活の中で、希望や意見を必ず聞くように接している。発語の少ない利用者の気持ちは、家族等から情報を得たり、職員間で情報を交換して共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	その人の行動や表情から汲み取っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族面会時に伺っているが毎回ではない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録と連絡ノートに記入し、全スタッフが共有しケアに繋げている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	会話や行動の背景に注目するように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人または家族に聴いたり、以前の施設、病院の職員などから情報の提供を受けている。家族から昔の写真を見せて頂いたり、趣味や興味があることを聞いている。	/	/	○	利用者や家族等、入居前に利用してきたサービス事業所などから情報を得ている。入居時の情報収集はもちろん、日々の生活の中で関係を構築させながら情報を得ることも大切にしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	本人の状態と意欲から家政やレクの内容を考え支援している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	普段から本人の様子や言動等で不安要素になる原因の把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日常会話や行動から本人の精神面に変化があるときは記録を残し、必要時にはご家族に相談している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録、業務日誌等および連絡ノートに記録の上、朝夕の申し送りにより把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	意向を伺ったり、言動や様子から本人への支援の方針を決めている。	/	/	○	日々共有している情報をもとにスタッフ会議で職員間で話し合い、利用者の気持ちを大切に検討を心がけている。家族とも生活上の課題を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の情報交換のほかに、担当者会議やスタッフ会で検討をしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプラン作成時に課題として取り入れている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人および家族の意向に沿ってプランを作成している。	/	/	/	介護計画書には、日々の生活の中でくみ取ってきた思いが反映されるように努めている。課題については家族等と共有し、意見の確認を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	担当者会議や運営推進委員会などで検討を図り、意見を基にケアに繋げている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	生活歴やご家族からのお話や意向を基に、計画を立てている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	必要時には、家族との連携を図り、地域の行事などにも参加できる体制を整えている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録・スタッフ会議・申し送り等で共有している。	/	/	○	スタッフ会議で介護計画を共有し、把握している。職員担当制を敷き、担当者と管理者が情報を交換し、モニタリングを実施している。記録の取り方は職員により差があると感じているため、利用者の暮らしの様子や気づき、職員の工夫などを盛り込んで生き生きとした内容となるように取り組んで欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の介護記録から状況把握を行っており、結果についてはモニタリングを基に担当者会議で見直しを行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	業務日誌、個別の介護記録にて職員間で共有している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	申し送りノートで情報交換をしている程度。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1度と、状態の変化や退院時に行っている。	/	/	○	介護計画の見直し時期の管理は管理者が行い、6か月ごとに見直している。毎月のスタッフ会議で全利用者の現状確認を行い、入退院など大きな変化や状況に応じた見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングの記入と確認をしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	身体状態の変化や退院時には見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日2回の申し送りの実施と月1回スタッフ会を開いている。	/	/	◎	毎月のスタッフ会議や、当日の出勤者で即日話し合いを持っている。参加できない職員は、話し合った内容を申し送りノートや会議録で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	アットホームな雰囲気です話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多く出席できるように日時を考慮している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録・申し送りノートで伝達している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	連絡ノート(記録)・申し送り(口頭)で、伝達している。	/	/	◎	口頭での申し送りや、申し送りノートや会議録で情報を確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	記録・口頭の両方で伝達し、連絡ノートには確認後捺印している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の希望があれば、可能な限り実現できるよう努めている。	/	/	/	その日の過ごし方や衣類を選ぶなどの希望は、その都度利用者に確認し、利用者が理解しやすい質問形式に配慮している。職員は利用者の表情や態度などから思いをくみと取ろうと努力し、言葉がけをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日の服や飲み物やおやつなど選択できる利用者様には決めていただいている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	声かけは行っているが意思疎通や自己決定が難しい利用者もいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床時間や入浴の時間など利用者の意向に添えている場面もあるが、基本の生活習慣が崩れないよう、声かけや援助を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	趣味、嗜好を把握したうえで、個別での対応もできるようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	主に表情で観察し反応をキャッチしている。利用者の意向に沿った暮らし方に繋げられるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	専門職としての対応は研修等を利用し知識を得ている。職員全体で意識して利用者向き合っている。	○	○	◎	優しい愛のある対応にこだわりを持ち、徹底している。人権や尊厳、関わり方の研修マニュアルを作成し、入職時に管理者から伝え、理解が深まるようにしている。利用者の希望に沿った呼称を取り入れ、声かけや対応に疑問が感じられる場合は、管理者が指導している。居室の出入りについては、利用者専用の場である理解があり、ノックや利用者へ声をかけることがルール化されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	場面により、はっきりと声かけしないと伝わらない方や、利用者によっても声のかけ方が異なるため難しいところもある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	異性の介助に抵抗がある方に関しては同性での対応をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の居室への入室時等、本人に声掛けしてから入室するなどして配慮に努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	守秘義務を理解し守っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	本人が望み、できる範囲で家政をして頂いており、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	利用者同士の関係性を大切に、孤立しないよう様子や配席に注意し見守りながら、必要に応じて職員が仲介している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の談話や会話は多くないが、ともに家政をする場面でも譲り合いながら行っている場面はある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	必要であれば会話に職員が関与したり、利用者同士の関係に配慮し座席を決めるなど、トラブルや孤立することが無いよう努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士でトラブルになりそう時は、職員が関与したり利用者同士の日々の関係づくりの支援を心掛けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時は家族の情報は得ている。面会者に対しては面会簿や口頭で関係性を把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時の情報の中では把握はしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	電話の取り次ぎや面会の支援を行っている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	あいさつは明るく気軽に訪れやすい雰囲気を心がけている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	本人の要望や天気がいい日は外出している。が重度の方に関してはホーム内で過ごされることが多い。	○	○	◎	その日の希望や状態を確認しながら、外出する利用者を固定化しないように少人数ずつ、毎日のように散歩や買い物に出かけている。重度な状態にあっても庭先に出たり、戸外の空気に触れられるよう配慮している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員やご家族の支援のみで行っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	定期的での実施はないが、行事毎には参加いただいている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	地域での盆踊りは地域の方の助けを頂ながらほとんど参加	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員研修で認知症への理解を深めるなどしている。様子観察や、対応については他の職員と情報交換しながら支援している。	/	/	/	自発的に機能訓練や家事を行う利用者の様子を見守っている。利用者のできることやできそうなことについて個々によく理解し、家族等とも情報を交換している。できることに取り組む利用者を見るうちに、自分もやってみようかと意欲がわく利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの残存機能に沿った支援を心がけている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者本人が出来ることは、本人に行って貰えるよう声掛け行い、時には待ちの介護で対応するなどの支援を心掛けている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	できる利用者には、洗濯物たたみ、野菜切り、食器洗い、食器ふきなど、それぞれの役割が決まっている。	/	/	/	一人ひとりの楽しみごと、役割、出番について個々によく把握している。継続して実施できるように声かけや場面づくりができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活歴を参考にしながらも、現在のレベルでできる内容で役割を見出せるよう心がけている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域での行事にはできるだけ参加しているが多くのはない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴や起床の際にお好きな洋服を選んでもらっており、ご家族にも好みの服を用意して頂いている。	/	/	/	家族からの希望も取り入れ、「いつもきれいでいて欲しい」という気持ちで接している。身だしなみやおしゃれに関する実施状況を介護記録で確認することができ、アセスメントを更新しているため、重度な状態になっても利用者の好みを活かした支援に活かすことができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族に情報収集させていただいているのである程度把握している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人が決定出来なかつたり、分からない場合、職員と一緒に選んだり、アドバイスする等の支援をしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に応じ、その時々之物に衣替えを家族にご協力いただいたり、職員と一緒に季節や行事に合わせた服装を選び、楽しんでいただくよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時に洗面や整髪の声掛けし、汚れには個人的に声掛けし居室等で着替えていただいたりしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	現在は訪問理容を利用している。希望があればご家族と相談して可能である。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご家族と相談し、髪型や好みの洋服など持ち寄っていただいている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は楽しみの一つであり生きがいととらえている。	/	/	/	利用者の好みや誕生日などの特別のリクエストメニューに応じながら、職員が交代で一週間ごとの献立を立案し、買い物や下ごしらえなどを利用者と共にやっている。利用者の嗜好を把握し、苦手なものについては代替食材で対応している。旬の食材を選んだり、ふかし芋などのおやつや、干し柿づくりを楽しみながら、季節感やなつかしさを味わっている。食器類は利用者ごとに使いやすい物を事業所で用意している。職員は食事のサポートやペースを見守ったり、お茶の時間を共にしているが、一緒に食卓で食事を楽しめるように検討して欲しい。重度の利用者も他の利用者と共に、リビングの同じ雰囲気の中で調理の過程を楽しんでいる。現在は献立のバランスなど専門的なアドバイスを受けていないが、法人内には相談できる栄養士がいるため、ぜひ定期的にチェックを受けてみて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	一部利用者には野菜切り、食器洗い、食器ふきなどをお手伝いいただいている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	毎日行うことで役割としてとらえていただいている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者、家族からの情報収集や日常の摂取状態にて把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	季節の旬の物を食べていただけるよう献立をたてている。また誕生日には好きなものを提供している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	歯の悪い方にはキザミだが、添え物もキザミにして綺麗に盛り付けている。便秘傾向の方に牛乳などで対応している。ミキサー食の方には一品ごとにミキサーし、器に盛り付けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご本人の選んだ茶碗を使用したり、新規利用の際には家で使っていた茶碗などがあれば持って来てもらうようにしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べることはないが利用者の様子を見守り、必要時は食事介助をするなどの支援を実施している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ミキサー食は、形がない分、それぞれに声掛けを行い、始めと終わりにもしっかり声掛けをしている。また食材に分けて盛り付けている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	時間を決めて水分摂取を行い、便秘の方には牛乳を飲んでいただいたりしている。決められた時間以外でも適宜水分を勧めている。	/	/	/	
		k	食事が少なかつたり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	種類を変えてみたり、時間をかけてなるべく多く摂取頂いている。必要な方には栄養補助食品を利用している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは行っていないが、職員同士の献立に対する話し合いは出来ている。	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	消毒や手指消毒の励行を毎日行っている。食器類は煮沸消毒やハイターで消毒をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	スタッフ会や研修会で学び、食事前の口腔体操の実施や食後の口腔ケアを実施している。	/	/	/	毎食後に口腔ケアを実施し、できる方には声かけし、必要に応じて介助している。義歯を自分で手入れする利用者には、声をかけながら自分でできることをしてもらっている様子が確認できた。口腔内の不具合について訴えがあれば対応していたが、訪問歯科診療で全利用者の健診を実施し、歯科医からの指導を受けるように改善し、定期的に把握できるようになった。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	何らかの変化を感じた時は必ず職員間で情報の共有を行って必要時は歯科の訪問診療を受けている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	訪問歯科時にアドバイスを受けて支援に生かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、義歯の洗浄、夕食後には義歯洗浄剤で除菌を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	食後、職員が支援しているが、自分で行う方に関してはチェックは十分ではない。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	症状があれば歯科医に相談、必要に応じて治療を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	失禁がある方に対してはパットで対応しているが、なるべくトイレでの排泄を心がけており定時にトイレ誘導している。	/	/	/	トイレでの自然な排泄を基本とし、意欲や身体機能を高めることができるよう支援している。オムツの利用者はおらず、排泄用品は個々の状態に合わせて、極力軽減できるように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	食事、水分量のチェックを行い、排便リズムや排泄記録を参考にしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェックシートを活用し、排泄の習慣やパターンを把握して声掛けを行うようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	できる限りトイレでの排泄を支援している。状態や排泄パターンに応じておむつの種類を職員間話し合いで決めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食後の様子や排泄記録を見直し、誘導のタイミングを図っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間毎の声掛け・トイレ誘導を心掛けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄の状況や身体状態の変化によって本人、家族と検討している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとり、適宜、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品の摂取や体操やレクリエーションの中で体を動かす取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者が、すぐに入浴したくないような時も、日時の調整をして入浴が出来るような支援に努めている。	◎	/	○	週2～3回の入浴を目安に、利用者の希望を聞きながら支援している。入浴が苦手な利用者もいるが、ゆったりとくつろいでもらえるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	あらかじめ、室温や湯温を確認し、気持ちよく時間をかけて入浴して頂けるよう支援しており、基本職員は1名見守りとして付く。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗える場所は自分で洗ってもらえない所のみ介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いしない。拒む理由に応じて時間を置いての声かけや必要に応じて中止している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタルチェック、入浴後も様子観察を行っている。また入浴後は、水分補給をいただいている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録や夜勤者の申し送りなどで把握できている。	/	/	/	不眠に悩む利用者がいて、職員がアイデアを出し合い、試行錯誤した経験を持っている。基本的な生活リズムを大切に、日中の活動量を増やしたり、環境を整備することで安眠につなげている。服薬に関しては医師と相談し、総合的に支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	時間の把握を理解していただくために食事前はいつの食事が伝えている。日中の過ごし方を見直す必要がある。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中は活動していただくように努めているが、それでも不眠の方等は、主治医に報告相談し指導をいただいている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	身体状態や体調によってベッドに臥床いただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	ほとんどの利用者から要望がない。希望があれば支援はできる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	同上。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	同上。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた物に関しては本人に確認するかご家族に相談している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	現利用者の中で電話や手紙を書く方が居ないため、基本面会。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしているが、所持をすることで無くなったと訴えられるケースがあるため、入居時にご家族に相談している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在買い物に行く機会を作れていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	同上。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	個人に合わせた管理をご家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に説明している。使用についてもご家族と相談。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	各自出納帳に明記しており、お金の使用目的や購入品についてもご家族の許可を頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訴えや要望は個別に異なり、難しい案件に対しても利用者様、ご家族様が納得できる声かけや対応をチームで検討している。	◎	/	○	その時々ニーズに柔軟に取り組んでいこうとする姿勢があり、お墓参りや自宅の様子が気になる利用者の要望に応えている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関付近には植木や花壇などで目を引く工夫のほか、誰もが集える環境作りをしている。	◎	○	○	玄関周辺に花を植えたりきれいに清掃するなど、来訪者が心を和ませ、気持ちよく出入りしてもらえるよう努めている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に応じた飾りを行い、季節感が感じられる工夫をしている。また、行事、レクリエーション時の写真を貼り、利用者、ご家族がいつでも見ることができるようにしている。	○	○	○	キッチンの調理台がリビングに背を向ける配置であるため、見守りに注意している。食卓とソファ席を分け、気分によって使い分け、季節のクラフト作品などを飾ったあたたか味ある空間を演出している。丁寧に掃除が行き届き、経年した建物ではあるが臭気はなく、清潔な空間となっている。自分で掃除を日課にする利用者もあり、できることがさっとできるように配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、換気と掃除の実施。トイレ、汚物入れに関してはにおいに留意して処理をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室で過ごされている利用者様に関しても、カーテンの開け閉めし、日の経ち時間を体で感じていただいている。また、天気の良い日は外に出たりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者の性格や生活習慣を把握したうえで、無理強いわず安心して過ごしていただけるよう支援している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	使用時には扉を閉め、利用者のプライバシーや羞恥心への配慮をしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具や衣類等を使用して頂き、利用者個別の住環境を提供している。	○	/	○	自宅で使用していたタンスなどの家具や身の回りのものを自由に持ち込んでもらい、自分で掃除や片づけをしながら居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自室やトイレの表示をわかりやすくし、歩行動線には障害物を置かないようにしている。	/	/	○	「おべんじょ」と馴染みある言葉を用いた掲示物で、トイレの場所を示してある。認識間違いを軽減させるよう、わかりやすい表示の工夫を各所に施している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレや浴室等にはプレートで表示を行い、居室には表札を取り付けるなど利用者によりわかりやすい工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	共用スペースには雑誌やお花を置いている。危険なもの(火を扱えるもの、刃物)等は置かないようにしている。使用目的が明確であった時は職員と一緒に使用している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	研修にて弊害の説明をし全ての職員が理解できている。日中の施錠は行っていない。	◎	◎	○	安全防犯上、防犯カメラの設置があるが、見守り重視での活用している。職員は施錠の弊害については理解し、日中の施錠はない。ユニット間にはチャイムを活用し、誰もが自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ご家族からの施錠の希望はない。基本施錠しない為、ご家族には理解頂いている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関には人が通るとチャイムが鳴る。扉の開閉時には音楽が鳴るシステム。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	基本情報に病歴、現病、服薬状況が一目でわかるよう記載したものを個々のファイルに綴じている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタルチェックを行い、食事、排泄、入浴、日常生活動作面で異常や変化が見られた場合は、記録をし情報を共有している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護時に相談と主治医に関してはいつでも連絡が取れる体制を整えている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前の受療状況を把握し、ご本人やご家族が希望する医療機関や医師に受診出来るように支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	同上。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院に関しては基本ご家族にお願いしてる。こちらで通院を行った場合は受診の状況や経過を報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は情報を提供し、医療機関との連携を図っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中はスタッフも面会をし情報を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	協力医との連携は図れているものの、他の病院機関との関係作りは十分ではない。不定期のあいさつ回り程度。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	必要時や定期的に利用者の変化や気づきなどを訪問看護師に伝え相談しアドバイスも受けている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医とは24時間相談できる体制にある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	特変がある場合、主治医に相談、即時対応できる体制にある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤表で確認している。変更や追加がある場合は申し送りを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	管理は施設側で行い、服薬時の確認は徹底している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後や服薬変更後、副作用の可能性があれば、協力医に相談している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更などがあれば、本人の状態の経過を主治医に報告している。必要時には家族にも説明を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化後のケアの方針やプランニングをご家族と話し合っている。	/	/	/	看取りの実施はないが、運営推進会議や入居時に家族等から希望を聞き取っており、今後は看取り支援をしていきたいと思っている。協力医療機関と24時間の連携がとれるが、終末期ケアについて職員は漠然とした不安感を感じており、勉強会や内外部研修への参加で不安の軽減に努めて欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	協力医には毎月の往診時に情報交換している。ケアを進めていく上での注意点やアドバイスを受けている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	現時点で施設内で看護師は在籍しておらず、看取りの体制は不十分だと認識している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	現時点で急変や施設内での対応が困難な場合は医療機関への入院をお願いしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態に合わせて、関係機関や家族との連携を図り今後の支援の在り方についてアドバイスや検討を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時の報告のほか、毎月日常の様子をお手紙でお知らせをさせていただいている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内、外での研修を行い、知識をスタッフ会で共有している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	発生時に備えて、消毒や処理道具の準備をしているが、日頃の訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症発症の情報を様々なジャンルの情報等を利用し入手し、逐一職員に伝達し情報を共有する努力をしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	テレビやインターネットで最新情報を入手し流行期は消毒の徹底と面会の制限も行う時もある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員の手洗いやうがいの実施は徹底しており、来客者には玄関設置のアルコール消毒をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	なるべく面会して頂くようお願いをしている。行事毎にはご家族の参加が望ましいが、参加されるご家族は限られている。				家族が活動に参加する場面や機会について、回数や参加者が少ないと感じているため、改善に向けて話し合い、具体的に工夫していけることに期待したい。利用者の日常をお便りにして届け、暮らしぶりを伝えている。運営推進会議では運営上の事柄を報告する様子が議事録から確認できるが、家族が理解できるように工夫が必要である。さらに、参加できなかった家族へも、運営推進会議で話し合われた内容や、運営上の報告が伝わるよう改善して欲しい。家族の来訪時には良好な関係が構築できるよう、積極的に声かけをしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔でお迎えて、ご家族様も居心地良く過ごしていただけるように利用者のご家族のみの空間の提供やスタッフからの近況報告をさりげなくさせていただく。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	ご家族が本人と散歩に行かれる事はあるが、ホーム内での活動や行事での参加はできていないので機会を作る必要がある。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お手紙をお送りしている。状態に変化があるときや至急相談が必要な際はライフラインで対応している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	アンケートや意見箱の設置には至っていない。面会時にお聞きしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症が進行していることや出来なくなってきた作業等理解しやすく丁寧に説明している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議で告知している。介護報酬関係で変更があった場合は全ご家族から同意書を頂いている。	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議に案内文でお招きしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	自室内の転倒のリスクは入所時に必ず説明して了解を頂いている。認知症進行に伴い異食行為、失行、失認があり日常生活が困難になってくる事などについてケアプランで具体的な支援内容を説明している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時は家族と話す機会を多く持つようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居に際しては家族、本人に説明を行っており質問にも対応している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居の希望があれば、退居先にスムーズに移行できるように、面談を行い調整している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に説明できている。料金改正がある場合は同意書をご家族から頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、理解を図っている。	/	○	/	自治会に加入しているが、まだ気軽な交流ができていないと感じており、今後の活動を通して気軽な交流が持てることに期待したい。地域密着型サービス事業の理解を深め、日常生活圏域の資源を把握し、職員が持っている沢山のアイデアを具体的に実践しながら、地域とのつきあいやネットワークを深めていって欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の行事に参加している。施設周辺散歩時にはあいさつは欠かさず会話もしている。	/	×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	同上。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	施設に足を運ぶ事はないが、施設周辺では気軽に声をかけてくださっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	同上	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ボランティアに来ていただいたことはあるが日常的ではない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	外出出来たころには出来ていたが、加齢や状態の悪化により困難になったこともあり、外に出かける機会は減っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	年に数回、消防署の方を招き消防訓練を行い指導して頂いている。職員のみならず、利用者様にも参加して頂いている。毎月1回は理美容室の方に来ていただき散髪をしてもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地元の民生委員さんや市の職員さんに参加していただいている。ご家族にも参加いただいているがいつも限られた人の参加が目立つ	◎	/	○	運営推進会議には、家族や地域住民の参加を得ている。あるがままの報告を行うことで、厳しい意見も具体的なアドバイスも得られ、出された意見を運営に反映するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議の中で報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	活動状況に対する助言などに対しミーティングで検討しサービス向上に努めている。また意見を反映させていくようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加していただけるように早めの日程調整を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	会議実施後、出来る限り早く議事録を作成し公表出来るよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの上で理念を掲げ、各階廊下に提示している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を示した紙を、外来者に見える位置に貼っている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	技術向上のために研修の参加を積極的に声掛けしている。	/	/	/	代表者は今年度からストレスチェックを導入することにより、職員の状態を把握し気づきを促す良いきっかけになったと実感している。業務や事業所内外の研修での学びを通じてスキルアップが図れるよう環境を整備している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人職員は業務の一環として技能習得のため研修を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の評価を個別に行い、賞与に反映させている。勤務については希望休を設け、残業はしない方針を貫いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	介護職員初任者研修の実施や市の事業所会に参加し交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員に対し声掛けて困っていることはないか訪ねている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	施設内、外での研修で学んでいる。研修報告を作成し、スタッフ会にて情報を共有している。	/	/	/	勉強の機会を設け、虐待や不適切なケアに当たる具体的な行為の理解に努めている。声かけや対応に改善が必要だと感じられると、その都度管理者が指導し、職員が気づきを持てるようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月に1回のスタッフ会で各階の状況等を報告しあっている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者の様子や心身への影響を留意し、不適切なケアが存在した場合は個別に注意する必要がある。利用者の身体的虐待等でできた外傷は事故報告として対応する必要がある。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務の状況からストレスが存在している事は事実であるが、それがケアに影響しないように個別で談話をしたり、勤務の調整をしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	行動を抑制しないケアを実施出来るよう工夫している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフ会での研修報告会や勉強会で確認をしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前での状態確認と契約時の拘束を行わない説明を行っている。そして拘束を行わないケースでの事故を事前にお伝えして、理解したうえでご入居して頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	判断能力が不十分、不安が生じても意思を尊重し、利用者本位で安心して過ごしていただけるよう援助している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	家族様より要望があれば、管理者との相談になるが、情報提供は行っていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	要望があり、相談となれば専門機関への支援が考えられる。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを掲示し、緊急連絡先は各スタッフに渡している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	ヒヤリーハットや事故報告書を基に原因と対応について話し合い、同じ事故が起こらないようにしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリーハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	再発防止を行なうため、職員どうして話し合ったりスタッフ会などで話し合っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居時、利用者の状態変化時は事故が起こりやすい為、見守りの強化と、普段の様子を職員間で注意深く観察している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	スタッフ会などで話し合いを行い、対応について検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	ご家族様からの要望については速やかに対処させていただいている。苦情に関しては事業所窓口のほか、第三者等の市の関係機関への案内も行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ会で話し合い、最善な対応で対処している。必要時は代表者とも相談し、ご家族との話し合いに同席して頂いている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常での苦情や要望は直接相談を受け付けている。また、伝えやすい人間関係作りや相談ごとには居室での個別対応を心がけている。	/	/	○	利用者には日常生活の中で、家族には来訪時や運営推進会議などで意見を伺っている。出された意見は早期に検討し、運営に反映できるように努めている。職員からは日常業務の中で意見や提案を聞いたり、相談する機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	面会時や運営推進会議で意見を頂いている。ただ本音の部分には十分に聞けていないところがあると感じる。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	管理者を通して相談等の他、第三者の市の関係機関への案内もさせていただいている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	管理者を通じて職員の意見などを聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	スタッフ会を行い、職員の意見を話せる機会を作っている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム重信の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	1年に1回実施。				サービス評価の取り組みは運営推進会議で報告し、その内容を議事録で確認することができるが、家族や地域の参加者は理解が難しいと感じている様子が伺えるため、伝え方に工夫が必要であり、今後の取り組みのモニターをしてもらえるなど働きかけて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価の結果をスタッフ全員が共有でき、改善に向けて取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を設定し、すべて利用者様を第1に考えられる計画を行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議の中で報告している。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議の中で報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時の対応マニュアルを作成している。				災害マニュアルを整備し、約3日分の食糧を備蓄している。年2回の訓練や、消防署からのアドバイスを受けているが、地域と住民との連携が薄いため、今後は家族や地域との話し合い、地域防災組織の訓練へ参加、他事業所などと連携を深めるなど具体的な活動に取り組みたいと管理者は考えている。さらに連携を深めていく中で協力・支援体制を確保して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回、避難訓練を実施している。また消防署の方を招いて、指導していただいている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	備蓄の保管や物品の点検は管理者が行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回、避難訓練を実施している。また消防署の方を招いて、指導していただいている。	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	今のところ実施出来ていないが、機会を探して参加したいと考えている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。				相談支援の要望には気軽に応じる姿勢があるが、まだ地域住民や関係機関との連携が浅いと感じており、今後の課題としている。地域の資源を把握し、事業所の認知症ケアの実践力を活かした情報発信や、啓発活動に取り組みながら、地域活動を協働していけることに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設見学時の相談をしている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	年に数回、愛大より実習生受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の研修会やイベント(お祭り)には参加している。			△	